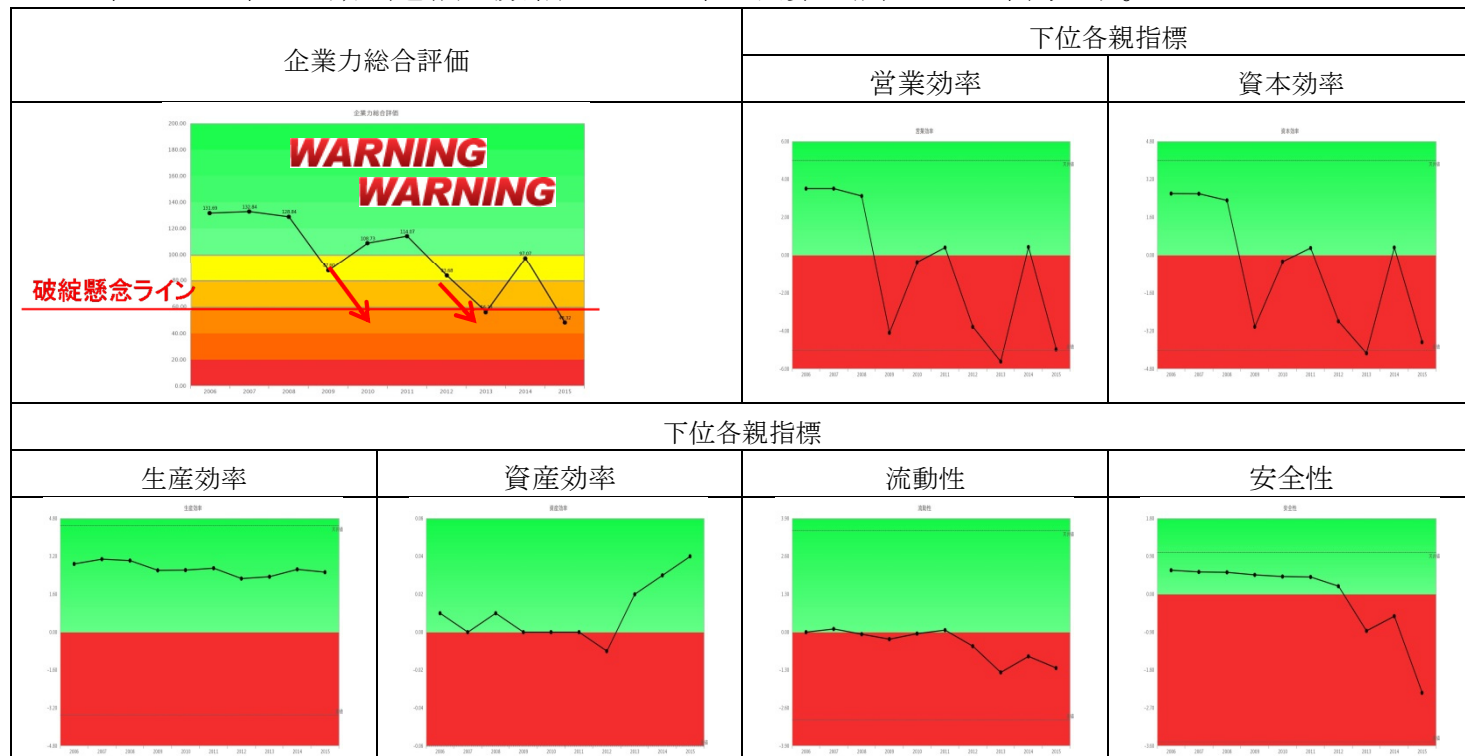


今回は、シャープ株式会社を分析してみました。5月9日、再建中のシャープ(株)は、資本金を1億円に減資する計画を発表し、その後、5億円に変更しました。資本金が1億円以下になれば、税法上の優遇措置があり、この優遇措置を受けることを批判され、5億円に変更したのです。

2006年～2015年3月期（連結財務諸表 2015年は決算短信）の10年間です。



企業力総合評価は、131.69P→132.84P→128.84P→87.60P→108.73P→114.07P→83.68P→**56.13P**→97.07P→**48.32P**と推移しています。2009年は、翌年も同じトレンドで悪化したらあと1年で60P以下の破綻懸念へ行く状況でした（**↓**）。2012年も悪化成り行き倍率1年で、翌期2013年に破綻懸念領域へ。そして2015年再度の破綻懸念領域、48.32Pで尚かつ**WARNING**も2つついており、予断を許しません。

営業効率（儲かるか指標）、資本効率（株主の評価指標）は、2009年、2012年、2013年、2015年ほぼ底値です。

生産効率（人の利用度）は、青信号領域を安定しています。資産効率（資産の利用度）は回復トレンドです。生産効率、資産効率については、意外と感じられる方も多いのではないのでしょうか。生産効率が比較的高いのは売上高・従業員数が減らない結果です。

また資産効率の改善と安全性はセットです。留保利益が流出し資産総額が減った為、売上高と資産のバランスである資産効率は改善し、留保利益喪失は安全性を悪化させているのです。

流動性（短期資金繰り）は、赤信号を更に悪化しています。

営業効率各下位指標を、もう少し見てみましょう。右上の表をご覧ください。

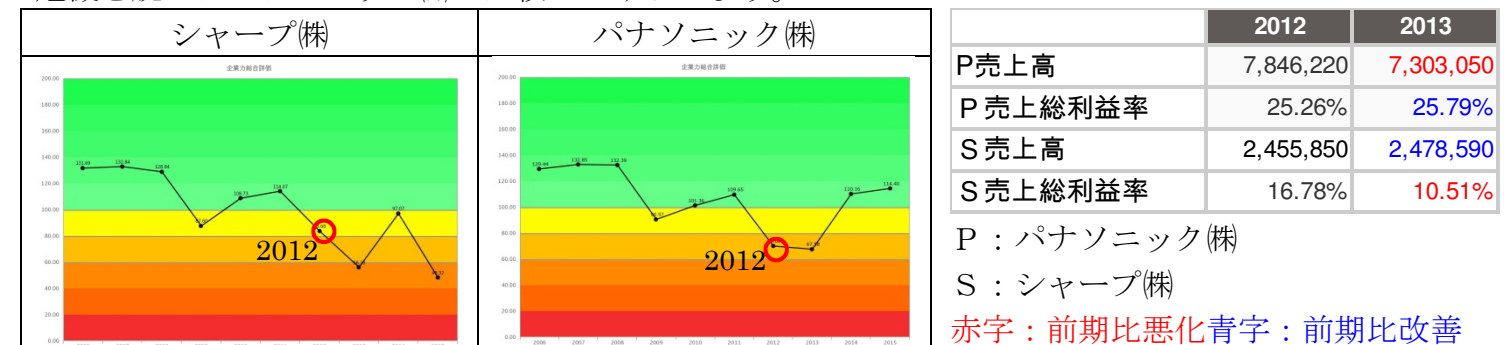
肌色の指標を左から右に横に読んでみて下さい。売上高は、2006年の2,797,109百万円から2015年の2,786,256百万円とほとんど変わりません。販管費（販売費及び一般管理費）も2006年468,273百万円から2015年の436,572百万円とほぼ変わりません。結果として販管比率(販管費/売上高×100)の変動は4%以内です。

青い指標を横に読んで下さい。売上総利益率が2006年の22.59%から2015年の13.94%へと8.65%も悪化しています。この指標の悪化が、シャープ(株)を苦しめました。

この結果は、他の財務指標にも影響を及ぼしました。緑の指標を横に読んで下さい。巨額赤字が原因となって、財務コストがかさみ、営業外損失が増えていきました。

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
売上高	2,797,109	3,127,771	3,417,736	2,847,227	2,755,950	3,021,970	2,455,850	2,478,590	2,927,186	2,786,256
売上原価	2,165,126	2,414,592	2,662,707	2,392,397	2,229,512	2,452,342	2,043,840	2,218,000	2,396,344	2,397,749
売上総利益	631,983	713,179	755,029	454,830	526,438	569,628	412,010	260,590	530,842	388,507
売上高総利益率	22.59%	22.80%	22.09%	15.97%	19.10%	18.85%	16.78%	10.51%	18.13%	13.94%
販管費	468,273	526,648	571,337	510,311	474,535	490,732	449,560	406,849	422,282	436,572
販管費率	16.74%	16.84%	16.72%	17.92%	17.22%	16.24%	18.31%	16.41%	14.42%	15.67%
営業利益	163,710	186,531	183,692	-55,481	51,903	78,896	-37,550	-146,259	108,560	-48,065
売上高営業利益率	5.85%	5.96%	5.37%	-1.95%	1.88%	2.61%	-1.53%	-5.90%	3.71%	-1.73%
営業外損益	-12,858	-15,947	-15,293	-26,950	-20,908	-19,772	-27,885	-60,222	-55,283	-48,461
経常利益	150,852	170,584	168,399	-82,431	30,995	59,124	-65,435	-206,481	53,277	-96,526
売上高経常利益率	5.39%	5.45%	4.93%	-2.90%	1.12%	1.96%	-2.66%	-8.33%	1.82%	-3.46%
当期純利益	88,671	101,717	101,922	-125,815	4,397	19,401	-376,076	-545,347	11,559	-222,347
売上高当期利益率	3.17%	3.25%	2.98%	-4.42%	0.16%	0.64%	-15.31%	-22.00%	0.39%	-7.98%

危機を脱したパナソニック(株)と比較してみましょう。



シャープ(株)とパナソニック(株)の企業力総合評価を比べてみれば、2012年時点では、パナソニック(株)が70.08P、シャープ(株)が83.68Pでパナソニック(株)が厳しい状況でした。しかし、2013年こらえたパナソニック(株)はV字回復を果たし、シャープ(株)は失速しました。

右上表を見て下さい。パナソニック(株)は、こらえた2013年、減収にして売上総利益率を改善し、シャープ(株)は増収にして売上総利益率を大きく悪化させています。この利益率の悪化でシャープ(株)は151,420百万円の利益を失いました。シャープ(株)の2015年の赤字が222,347百万円であることを考えれば、その額の大きさが実感できます。

まとめ

シャープ(株)は、2009年から7年間、危機感を感じていたのでしょうか。そして、2012年から4年間、破綻が目の前に迫った危機的状況と認識していたのでしょうか。数字の動きをみていると、悪いところを切り取る再生というより、今までどおり増収を狙っていけば良いという幻想を見ているように感じます。

お問合せ先 SPLENDID21に関するお問合せは下記までお願いいたします。
〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号 税理士法人 諸井会計
tel 0952-23-5106 fax 0952-22-2888 ☒ info@moroi.co.jp URL <http://www.moroi.co.jp/>